

愛媛大学大学院農学研究科 研究シーズ集（研究者情報）

氏名	久米 崇	専 攻	生物環境学科
		コ ー ス	地域環境工学
職名	准教授	専門分野	地域環境整備学
メールアドレス	kume@ehime-u.ac.jp	その他連絡先	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥地域の農地における水分・塩分管理 ・微量環境汚染物質(PPCPs)の環境動態解析 ・農業農村のレジリエンス強化戦略の構築 		
キーワード	乾燥地, 灌漑排水, 塩類集積, PPCPs, レジリエンス		
研究内容：			
<p>・乾燥地域の農地における水分・塩分管理</p> <p>乾燥地における水・物質移動の解析は、作物生産のみならず、塩類集積問題や地下水枯渇問題のような環境問題に対応するためにも非常に重要である。近年、特に乾燥地では地下水のくみ上げによる灌漑農業が急速に拡大し、その水量・水質の問題が浮かび上がっている。本研究課題では、現地調査・観測を主として、乾燥地における水分・塩分管理を適切に行い、持続的な乾燥地農業のあり方を研究していく。</p> <p><研究業績></p> <p><u>Takashi Kume, Tadao Yamamoto and Katsuyuki Shimizu, 2015, Non-uniform distribution of soil salinity along a transect of an irrigation field in an arid region, International Journal of Environmental and Rural Development, 6-1, 181-187(査読付)</u></p>			
<p>・微量環境汚染物質(PPCPs)の環境動態解析</p> <p>近年、環境汚染物質として注目されている PPCPs(生活系医薬品)は、微量ながらも生態系に影響を及ぼすといわれている。本研究では、主に農村集落排水やその接続河川等を対象に、PPCPsを LC/MS/MS や GC/MS 等で分析しその動態を解析するものである。また、土壌中や底泥における PPCPs の吸着・分解に関する研究を進めていく予定である。</p> <p><研究業績></p> <p><u>久米崇, 治多伸介, 3種類の土壌における生活系医薬品に対する吸着量の定量的解析, 平成28年度農業農村工学会大会講演会, 8月, 仙台市, 2016(口頭発表)</u></p>			
<p>・農業農村のレジリエンス強化戦略の構築</p> <p>地震、津波、また気候変動などの自然災害の頻度と程度が悪化してきている。このとき、農村のような社会システムが備えるべき能力がレジリエンスである。レジリエンスとは、あるシステムが攪乱を受けたとき、速やかに元の状態に戻ることができるための能力と定義されている。本研究では、主に自然災害と気候変動を攪乱として扱い、農村の攪乱に対する回復能力とその要因を明らかにし、回復能力(レジリエンス)を強化するための方策を研究していく。</p> <p><研究業績></p> <p><u>久米 崇, 山本 忠男, 清水 克之, 自然災害に対する沿岸農地のレジリエンス, 農業農村工学会論文集, Vol. 84 (2016) No. 3, pp.301-306(査読付)</u></p>			
提供可能な資源・技術・その他			
<ul style="list-style-type: none"> ・安定同位体分析, 微量元素(PPCPs)分析, 土壌物理・化学性試験, フィールド調査, レジリエンス理論など 			
プロジェクト研究希望テーマ			
<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥地における攪乱に強い持続的な農業農村システムの構築 ・河川流域における環境汚染物質の測定・管理 			